

考えを深め、自分とのかかわりを見つめる道徳の授業

神奈川県川崎市立新城小学校 教諭 片岡 義順

小学校6年 道徳 ココロ部！

番組の特徴

『ココロ部！』は子どもたちに、考える力とコミュニケーション力、‘道徳力’を楽しんで身につける番組です。番組内で起こる道徳的葛藤場面に遭った時の対応について、じっくり話し合うことで、自分の生き方について考えていくことができます。

研究の概要

番組を活用して、子どもが道徳的葛藤場面を通して、自分とのかかわりとして考えたり、友達と話し合ったり、考えを整理したりしながら学んでいくことをねらって本研究をすすめた。番組内容に興味をもって学習に臨めることで、学習への意欲が高まった。継続的に番組を活用していくことで、友だちの多様な考えにふれながら、考えを整理したり、深めたりしていく姿が見られた。

授業デザイン

主題：異文化への理解と世界の人々との交流（4-8）
ねらい：外国の人びとや文化を大切にする心を持ち、日本人としての自覚をもって世界の人びとと親善に努める

導入

番組名とタイトルを板書する。

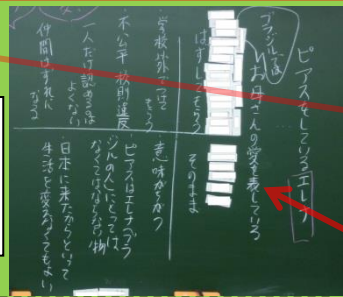


番組視聴

第7回 外国からきた転校生

全体で感想・意見交流

自分のクラスに同じような状況が起こったらどうするか、自分の立場を明確にして考えを出し合う



意見交流で出た外国からきた転校生への子どもの考え

学校のルールに合わせてもらおうべき

学級で1人だけというは許されない

ピアスを認めてあげるべき

個人思考
↓
発表

「外国の人と共に暮らすには」という視点で自分のクラスで同じことが起こったらどのように行動するか考える。（食文化の違い等紹介）

振り返り

外国の人の習慣を理解しようという心や受け止める心が大切だと分かった。そして自分もそういう心を持つと思った（ワークシートより）

番組や関連動画クリップの活用意図

番組活用で全員が学習に参加できる！

番組への期待感が学習への意欲喚起となっている。学習問題について全員で共有しやすいので全員参加の授業が実現できる。

話し合いが生まれ、思考が始まる・深まる

番組内の葛藤場面について、登場人物の行動をもとに全員が考えをもつことができる。その考えを交流することで、異なる考えに触れたり新たな考えを生み出したりすることができる。

授業デザインにかかわる教師の工夫

感想やつぶやきを表現する時間の保障

- ・視聴後に発言する時間を設定する。
- ・この考えを書いてまとめる時間を設定する。

板書でのネームプレートの活用

- ・対立する問題について自分の立場を表明する。
- ・立場を表明した後、根拠を述べる。
- ・異なる意見の根拠も聞く。

⇒それぞれの根拠の価値に気が付く時間とする。

自分とのかかわりとして考えを深める問い

- ・本時では「学級の問題」→「国際理解」の視点へと視点を整理して自分とのかかわりで考えさせた。
- ・「どちらがよいのか。なぜよいのか」ではなく、「どちらの気持ちを大切すべきか」を考える時間とする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から（ワークシートの振り返りから）

- 外国の人に限らず日本人でも少し違う人もいる。そういう人達を理解する必要があると気が付いた。
- その国の文化を受け止め、差別せず優しくしてあげたい。その上で日本のことも教えてあげられるようにする。

評価シートから（実践前後で有意差が見られた7項目（全15項目）より抜粋）

- 授業に集中して取り組むことができる。
- 学習を今後の生活に役立てたい。
- 自分自身の気持ちにあてはめて考えることができた。

同僚の評価

- 番組の作りが子どもに考えさせるようになっている。番組視聴が効いてその後の話し合いがスムーズに展開していた。

実践を終えく行動宣言

番組視聴後の子どもの思いに寄り添った授業デザインとして、思考場面や交流場面などを工夫してきた。本実践を通して、道徳的な価値項目について自ら進んで考え、友達との意見交流を行いながら深く考えていくことができた。こうした成果は、道徳に限らず他教科でも実現することができている。今後は、自身の実践が少ない実技教科番組活用において、自ら進んで考え、深く考えていく授業について研究を深めていきたい。